

TOPICS

1

令和8年度岡山大学入学式、大学院入学式を挙行



本学は4月2日、令和8年度岡山大学入学式及び大学院入学式を岡山県総合グラウンド体育館で行いました。学部生・大学院生あわせて3,468人が新たに入学し、大学生活の第一歩を踏み出しました。

那須保友学長は式辞で、「岡大愛(岡大ラブ)」や「不易流行」をキーワードに挙げ、変化の激しい時代において大切にすべき本質を見極める重要性を強調しました。「皆さん一人一人が主役であり、希望に満ちた新しい一日がここから始まります」と期待を込めて述べました。

入学生を代表し、教育学部の榎本凌太さんが宣誓。「仲間と切磋琢磨しながら視野を広げ、人間性を深めていきたい」と述べるとともに、「多様な価値観を尊重し、新たな創造性を見出しながら挑戦を続け、社会に貢献できる人間となるよう努力する」と力強く誓いました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15247.html



TOPICS

2

未来医療創発研究所の看板除幕式を開催

本学は本年4月に「未来医療創発研究所」を設置し、4月6日に同研究所の看板除幕式を岡山大学鹿田キャンパス臨床研究棟玄関前において挙行了しました。

本研究所は、本学がこれまで培ってきた臨床研究、再生医療研究および放射性医薬品研究の強みを統合し、異分野連携による先端的・融合的医療技術の創発を推進することを目的とし、日本から世界の医療に変革をもたらす研究拠点を形成し、健康寿命の延伸、医療費の削減および医療技術の世界展開の実現を目指すために設置しました。

除幕式セレモニーでは、那須保友学長、豊岡伸一副理事(新医療研究拠点担当)、宝田剛志所長による除幕で、新たな看板がお披露目されました。その後、那須学長、豊岡副理事、宝田所長からあいさつがあり、那須学長からは、「この研究所をより拡張していくために様々なリソースを共有するつもりであり、様々な計画を立てているので、みなさんと一緒に我々の未来を創っていききたい」と激励の言葉がありました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15272.html

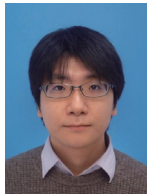


Pick up!

異分野基礎科学研究所の菅倫寛教授・中島芳樹助教、惑星物質研究所の石井貴之准教授が令和8年度科学技術分野の文部科学大臣表彰を受賞!



菅教授



中島教授



石井准教授

本学学術研究院先鋭研究領域(異分野基礎科学研究所)の菅倫寛教授および中島芳樹助教が、令和8年度科学技術分野の文部科学大臣表彰「科学技術賞(研究部門)」を受賞しました。また、同領域(惑星物質研究所)の石井貴之准教授が、同表彰「若手科学者賞」を受賞しました。

菅教授らの「X線自由電子レーザーを用いた光合成の水分解反応の研究」は、太陽光と水からクリーンエネルギーを創出する人工光合成触媒の合理的設計につながる成果として高く評価され、今回の受賞に至りました。

また、若手科学者賞は、萌芽的で高い独創性を有する研究を行い、今後のさらなる活躍が期待される若手研究者に授与されるもので、本年度101人が受賞しました。石井准教授の「高圧実験による地球内部構造と物質循環に関する研究」は、マントル鉱物の相平衡関係や結晶化学、地球深部における水の挙動の解明において、従来の枠組みを超える知見を提示し、惑星物質科学分野の発展に大きく貢献した研究成果が高く評価され、今回の受賞に至りました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15270.html



TOPICS

3

令和8年度「岡山大学名誉教授及び名誉技監称号授与式」を挙

本学は4月7日、名誉教授及び名誉技監称号授与式を挙

行しました。名誉教授の称号は、本学で永年にわたり教育、学術について功績のあった者に対して授与されます。今年度は新たに27人が名誉教授となり、式に出席した16人に那須保友学長から辞令書が授与されました。

また、新たに創設された名誉技監の称号は、本学の技監制度によって、高度な専門技術と卓越したマネジメントを通じて、本学の運営、発展に貢献した人に対して授与されるもので、わが国初の制度です。今年度は3人が初めての名誉技監となり、那須保友学長から辞令書が授与されました。

那須学長は「志を同じくする大学人として、本学の理念『高度な知の創成と的確な知の継承』を果たしてきた皆さまは、まさに同志。お一人おひとりに辞令書をお渡ししたとき、過去に皆さまと一緒に取り組んださまざまな業務のことが思い出されました。本当にありがとうございました」と感謝の言葉を述べました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15279.html



TOPICS

4

岡山大学シニア・ミドル研究者支援パッケージ第1弾
「岡山大学名誉教授・卓越教授の新設」

本学は4月17日に「岡山大学シニア・ミドル研究者支援パッケージ第1弾「岡山大学名誉教授・卓越教授の新設」～75歳まで定年延長し、研究活動が続けられる制度～」を公表しました。

今回は教授を対象に、優れた研究業績等を有する者を対象として「卓越教授制度」、そして卓越教授を3回更新することによって授与される「名誉教授制度」の2つを新設しました。

卓越教授は、認定されると2年間有効です。この間は間接経費のインセンティブ付与や管理運営業務の負担軽減などを行います。卓越教授の認定を3回授与され、かつ本学名誉教授の付与資格をクリアしている場合には、名誉教授の称号付与の権利を得ます。

名誉教授は、本学での退職が65歳から75歳へと延長されるため、実施的な定年延長となります。また現在の給与や研究室主宰は継続されます。なお研究室に配置されている准教授などは教授への昇任することも可能であり、「上の者がいるので、下の者が教授になれない」ということはありません。このような制度は、わが国初のもので

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15312.html

PRESS
RELEASEカラスはなぜ真っ黒？
—黒さの秘密は「止まらないスイッチ」にあった

岡山大学学術研究院環境生命自然科学学域(理)の竹内栄教授、相澤清香准教授らの研究グループは、羽の色を決める受容体「MC1R」に着目。その機能解析から、黒さを生み出す“スイッチ”であるMC1Rが、カラスでは切れることなく入り続けている可能性を明らかにしました。

鳥の羽や動物の体色は、主に黒色系のユーメラニンと赤褐色系のフェオメラニンのバランスで決まります。このバランスを調整するのがMC1R、いわば“色の切り替えスイッチ”です。通常はホルモン刺激によって一時的にオンになり、ユーメラニンの合成を促します。

本研究では、ハシブトガラスのMC1Rを培養細胞で詳細に解析した結果、ホルモンがなくても高い活性を保ち、ホルモン刺激への応答が弱いことが判明しました。つまりカラスでは、このスイッチ自体が常にオンの状態にあり、ユーメラニンが作られ続けていると考えられます。さらに、マウスやニワトリでは1アミノ酸置換で生じる「止まらないスイッチ」が知られていますが、カラスでは複数のアミノ酸変化の組み合わせで生じている可能性が示されました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id1536.html

